

日野市立教育センター所報

教育センターだより

第29号 平成25年3月29日発行



7月27日・午前
CST夏季理科実技研修会

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



「教育立市 日野」の実現に向けて

日野市教育委員会 教育委員 高木 健夫

日野市では、「教育のまち 日野」を目指し教育行政を進めてきました。教育関係者や市民の皆さん、多くの諸先輩の熱意や温かい想いにより、積み上げられてきました数多くの実績があり、教育行政の関係者から高い評価をいただいている事案も多いと感じています。しかしながら、一方では様々な課題を抱えている実態もあります。

世の中の状況を見てみますと、ご存じの様に大変厳しく難しい状況にあります。近年の世界的な政治・経済・社会の流動化やグローバル化は、遠く海の向こうの他国の社会変革や経済・企業動向等の影響が、短時間で直接的に日本国内に及んでいきます。国内をみても、グローバル化の影響により、経済・政治や社会が大きく揺れ動き、産業の空洞化や雇用確保が困難になる等、私たちの暮らしや生活に直接的・間接的に様々な影響を受け、現状への危機感が高まり将来に対する不安が増しています。また、子供を抱える家庭の生活や暮らしにも色濃く影響を及ぼし、そのことが子供達の日常の就学環境等にも強く大きな影響を与えている状況にあります。

本年、日野市は市制施行 50 周年を迎えています。今後を見据えた日野のまちづくり、産業の振興、地域の活性化等も大きな課題と認識しています。また、前述の世界的、国内的に激動する中で、日野市としてどの様に抱えている課題の解決を図っていくのか。課題解決に向けての大きなポイントの一つは、既に色々な場面で多くの方から指摘がありますように、人材育成であり教育にあると考えています。日野市はもとより社会に今後生ずる諸課題に対して、大局的な視点にて、課題・問題解決ができる人材の育成・教育や、広く社会で活躍や貢献できる人材の育成・輩出を図ることです。中長期的な視点で「教育のまち 日野」をより一層進化させていき、求心力のある日野市づくりに向けて「教育立市 日野」の実現を図ることが肝要と考えます。

当然ながら、一つの地域行政でできることには限界があり「教育立市 日野」の実現を図るには、財政的な課題を初めかなりの困難が伴うことが想定されます。地道に坂道を上る気概を持って取り組みを進める過程で、その効果や成果を近隣地域に発信できれば、その取り組みの輪が広がり、大きなうねり・潮流となることもあると考えます。

日本社会を振り返っても、この数十年でも社会・環境やグローバル化等々は加速度を上げて変動・進行はしていますが、社会を構成する人間達の本質は変わっていませんので、今日的には人材育成・教育の重要さは益々増していると考えます。また、これまで以上に、従来の経験則が活用できない事象や状況が頻繁に現れていますので、その様な事象や状況の問題解決ができる考え方・手法等、教育の内容や在り方等も従来の踏襲や延長でないものが求められています。

当市には、これまでの「教育のまち 日野」を目指した事業運営にて、随所にその効果・成果が表れています。日野の子供たちは大変素直で明るく、元気で色々と多くの実績をあげていますが、これは家庭や学校・地域での教育や子供達への一連の教育施策が的確に運用されている結果と感じています。従って、直面する課題は多くありますが、教育施策をより発展・進化させるための各種基盤が既に構築されていますので、先進的で挑戦的な取り組みを進めることで「教育立市 日野」の実現は可能と信じています。

日野市で育ち学ぶ「ひのっ子」が更に大きく成長・飛躍することを通じて、併せて周囲の大人達や地域社会が発展・深化する取り組みを進め、「教育立市 日野」の実現を図るために多くの市民の皆さんと共に進めることができれば、道は開けると考えています。

平成24年度 日野市立教育センター行事の報告

わかば教室 音楽会

平成24年12月14日（金）

日野市立教育センター 講堂



わかば教室では、毎年2学期の大きな行事として音楽会を開催しています。この音楽会には、保護者、在籍校の先生、教育センター所員を招待し、練習の成果を披露しています。今年度は、「世界平和」をテーマに掲げ、「世界に一つだけの花」、英語詞の「We Are The World」を合唱し、「果てない空」、「小さな世界」を演奏しました。また、この他に、社会科の学習で取り組んできた世界で起こっている出来事をまとめ、掲示発表しました。当日は、昨年度からお招きしている「草原コール」合唱団に、すてきな歌声を披露していただきました。子供たちは、苦勞して取り組んできた練習の成果を発表でき、またたくさんの方々からの拍手をいただき、大きな喜びと成就感を得ることができました。

平成24年度 日野市立教育センター

調査研究事業発表会

平成25年2月20日

日野市立教育センター 講堂



昨年度まで年2回行っていた発表会ですが、本年度より、2月の1回のみとなりました。加島俊雄所長の挨拶の後、①理科教育推進研究 ②郷土教育推進研究の2つの調査研究の発表が行われました。

各事業の詳しい活動内容は、本センター便りの3～4ページをご覧ください。

また、本センターの事業をまとめた教育センター紀要は、5月にWebサイトで公表されます。

平成24年度 日野市立教育センター

第2回 運営審議会

平成25年2月27日

教育センター 会議室



本センターには、その運営について必要な事項を審議するために運営審議会（学識経験者など8人で構成）が設けられています。この度、本年度第2回目の審議会が行われ、3部・7系の事業の評価と課題、展望について、審議がなされました。

来年度は、本審議会の審議結果・提言、教育委員会・市内幼稚園・小学校・中学校各校等の意見及び調整を経て、新しくスタートすることになります。

I 調査研究部

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

—地域の教材を活かして魅力ある理科授業の展開を—

（１）映像「日野の生きもの」－四季－を活用した授業

一昨年、各校に配布しました「日野の生きもの－四季－」を活用した授業を、12月7日(金)に行いました。授業者は、日野第四小学校の栗木勇主任教諭で、4年生「季節と生きもの」～秋の生きもの～の単元で実施しました。

前時に校庭で観察した観察カードを基に、気温の低下に注目しながら秋の動物の様子をまとめ、その後「日野の生きもの」の映像を見ながら、まとめたことの確認や秋の動物についてのイメージ

を広げる学習をしました。

ビデオを活用する場面では、

- ・映像を選ぶ
- ・映像を止め、児童の観察記録と結び付ける
- ・ビデオの解説音声を出したり、止めて教師が解説したりする
- ・観察できなかった動物の紹介 など

映像を効果的に授業で活用していました。

今後「日野の生きもの」の四季を通じての変化を記録した、教材用のDVD作成を予定しています。

（２）日野の地層の剥ぎ取りと標本

日野市で観察できる大規模な地層が、南平高校の西隣の谷戸にあります。「海鳴りの丘」と呼ばれています。ここで見られる地層は小山田層で、160万年前の浅い海に堆積した、砂を中心にした地層です。多摩川や浅川の川床を構成している浅い海に堆積した平山砂層より少し新しい時代の地層です。この地層は、今から160万年前の南平付近は浅く、比較的穏やかな海であった事を教えてくれます。

毎年、日野七小が行う海鳴りの丘の地層の見学で講師をしている高校の先生から、地層を剥ぎ取り標本を作る提案がありました。郷土資料館に相談をし、郷土資料館での展示用と、学校への貸出用の地層の標本を作ることにしました。2月8日(金)に剥ぎ取りをしました。郷土資料館では展示や貸し出しができるよう加工をしています。なお、剥ぎ取りの様子や海鳴りの丘の地層の説明を映像に撮りました。映像と資料をDVDにして各校に配布する予定です。

※ 地層の剥ぎ取りの様子は日野ケーブルテレビのニュースで放送されました。日野ケーブルテレビのWebライブラリー「デイリーひの」ニュース・コンテンツの2月13日(水)の中で見られます。



2 郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

（１）郷土教育と防災教育

平成23年3月11日の東日本大震災の後、子供たちの防災意識を高め、自分や地域の安全なくらしについて探究する学習が重視されています。防災教育は、安全指導の時間のほか、社会科・理科等の教科・道徳・総合的な学習の時間に実施されています。防災教育に郷土教材を活用すると、臨場感のある実践ができると思います。小・中学校で活用してください。

（２）防災教育に活用できる郷土教材の発掘

①建武2年(1335)8月4日の台風（高幡山金剛寺不動堂）

この日の台風は、すさまじく境内の大木をなぎ倒し、高幡山の丘陵上にあった不動堂も倒壊しました。本尊の不動明王をはじめ多くの仏像も破損しました。康永元年(1342)に金剛寺中興の祖「儀海」の尽力で、もとの地ではなく現在地に再建されました。現在地より南方の丘陵上に「金剛寺旧跡公園」があります。また、公園付近の山裾の谷戸を「こんどう（金堂）谷戸」と呼んでいます。近くには「門前」と言い継がれている屋号の家があります。このことからここに金剛寺の伽藍があったと考えられます。



金剛寺旧跡公園

この台風で鎌倉の大仏殿も倒壊しました。その後再建されましたが、明応4年(1495)の津波で流され、露座の大仏となってしまいました。

②弘化3年(1846)の洪水（土方歳三生家）

石田村は多摩川と浅川の合流地点にあり、川の豊かな恵みを受けるとともに、古くから洪水の被害を被ってきました。両川が氾濫すると田に大量の石が流れ込み、石の多い田「石田」となりました。これが地名の由来と考えられています。石田村の洪水の記録は村絵図・川欠け絵図として残っています。現在記録されている最も大きな洪水は弘化3年のものです。土方歳三の生家も土蔵と物置が流されるなど大きな被害があり、生家の隼人家は現在地へ移転しました。その当時の家屋は平成2年まで残っていました。この洪水により、日野の渡しも渡船が転覆し大勢の犠牲者を出しました。石田村は多摩川対岸の谷保村に新田を開発し移住したので、現国立市に「石田」の地名が残っています。石田村では洪水のたびに移住が行われ、土方姓の分布からも移住先を調べることができます。石田村絵図を読み取ると、新たな発見があり、興味深く地域の歴史を掘り起こすことができます。



土方歳三生家跡

③平山砂層と液状化現象(田中こども広場)

日野市の公園は、過去の歴史・伝説・地名から命名されることがあり、公園名が地域の昔を調べる郷土教材として活用されています。南平に「砂層公園」があります。この名前から、日野市の多摩丘陵は、海底で堆積した地層が隆起してできたことがわかります。この砂礫が多い地層を「平山砂層」と呼んでいます。砂層公園の北東方向に「田中こども広場」があります。広場の南には平山砂層の露頭が見られ、その地層をよく観察すると液状化現象の痕跡が見られます。東日本大震災で浦安のディズニーランドも液状化現象で閉鎖されたこともありました。その液状化現象の痕跡が日野市の地層で観察できるのです。この地層は、日野第七小学校6年生が理科学習に活用しています。日野市郷土資料館では、学校で活用できるよう地層の剥ぎ取り標本を作製しました。



※参考文献

- | | | |
|--------|----------------------|------------|
| ・平成19年 | 「村絵図を楽しむ2－南平・程久保（2）」 | 日野市郷土資料館 |
| ・平成22年 | 「村絵図を楽しむ5－石田・上田－」 | 日野市郷土資料館 |
| ・平成23年 | 「伝承・わが街の歴史Ⅱ－南平の昔」 | 清水守男 |
| ・平成24年 | 「日野市旧桑田村の地名」今尾恵介監修 | 日野の昭和史を綴る会 |

3 ひのっ子教育 2 1 開発委員会研究

基礎調査研究係

<国語部会>

研究主題 主体的な読みを深める指導法の工夫
～文学的教材における確かな読みを目指して～

国語部会では、目指す魅力ある国語科の授業と実際の課題、学力調査の分析、学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童・生徒が主体的に読みを深めることが国語科の授業を魅力あるものとするために大切であると考えました。そこで研究主題を「主体的な読みを深める指導法の工夫」としました。また、特に文学的教材において、児童・生徒の読みを深める力が課題であると捉え、副主題を「文学的教材における確かな読みを目指して」として、一年間、授業研究を積み重ねることにしました。

<研究主題に迫るための4つの手立て>

1 身に付けさせたい児童・生徒の力を明確にする

本開発委員会では、まず、学習指導要領の「C読むこと」における指導事項から児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にした上で、指導計画を作成する。

2 単元を貫く言語活動を設定する

国語科の指導事項は、言語活動を通して指導することとなっている。
本開発委員会では、以下の4点到留意して、単元を貫く言語活動を設定した。

- ①児童・生徒に身に付けさせたい力に即した言語活動を設定する
- ②言語活動の見通しをもたせるようにする
- ③相手意識・目的意識を明確にした活動を設定する。
- ④児童・生徒の「大好き」や「お気に入り」を大切にする

3 確かな読みを深める指導の工夫

単元を貫く言語活動の設定に基づき、児童・生徒の主体的な読みを深めるための手立てを単元の指導計画や児童・生徒の実態に応じて設定した。具体的には、生活経験との結び付けや動作化による場面の様子の理解促進、ICT機器の活用による視覚的支援、読み取りの視点を明確にしたワークシートの工夫を行う。また、日野市の重点施策であるICT活用教育、ユニバーサルデザインの視点を意識した授業構成を実施する。

4 読書活動の推進

国語科の各学年の目標では、どの学年においても自己の読書に対する態度を形成していくことが求められている。「C読むこと」の学習は、児童・生徒の読書生活に結び付けていくことが大切である。シリーズ本や同じ著者の本、様々なジャンルの本など単元の指導計画に合わせて読書環境を整えておき、いつでも本を手にとれるようにした。朝読書等の時間を活用して、読書習慣を身に付けさせる。また、学校図書館の積極的な利用とともに市立図書館の団体貸出や搬送制度を利用した児童・生徒が読書に親しむための読書環境の整備を行う。

<研究発表の実施>

2月7日(木) 日野市立日野第三小学校

研究授業	3年1組「三年とうげ」	授業者	七生緑小学校	教諭
	5年2組「大造じいさんとがん」	授業者	日野第三小学校	教諭
研究発表	プレイルーム	講演	青山学院大学	教授 小森茂先生



＜算数・数学科分科会＞

研究主題 ひのっ子の思考力を高める魅力ある算数・数学科の授業づくり

算数・数学部会では、日野市の重点である ICT 活用教育、特別支援教育、幼保・小・中連携の充実の視点を踏まえ、思考力を高める魅力ある授業づくりを研究してきました。問題解決学習を通して数学的な思考力を育てることをねらいとし、魅力ある授業づくりのポイントを3つに絞り、この一年間、授業研究を重ねてきました。



研究発表会の5年生の授業

思考力を高める魅力ある授業づくりの3つのポイント

1 児童・生徒の問いを引き出す課題提示の工夫

児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にした授業を構成すること、教材が魅力的であることが重要である。教師の課題提示の工夫の仕方で、児童・生徒の問いをひき出すことができる。児童・生徒の問い（声）に耳を傾け、共に問題を創り上げていこうとする教師の姿勢が魅力ある授業につながっていく。

2 豊かな表現力を育てる工夫

まず、一人一人が考えを持ち、確実に自力解決できること、そのためには、言葉による表現だけでなく、数や式による表現や図・表などによる数学的な表現を豊かに用いさせることが大切である。これらを関連・統合させて考えを広げたり、深めたりする、さらに根拠を明確にして説明したり、論理的に伝えたりすることができるように豊かな表現力を育てること、そして多くの児童・生徒が説明する場を工夫したり、伝え方（プレゼンテーション）を工夫したりすることも大切である。

3 思考力を高めるコミュニケーション活動

児童・生徒が考えを説明する場面では、話し合いの視点を明確にして話し合う。児童・生徒がお互いに学び合うような授業にする。発達段階により、ペア学習やグループ学習などの学習形態の工夫から学び合いができるようにする。さらに、児童・生徒の発言をつなげ、考えを統合・発展させていく。様々な考えの共通性や相違点を見だし、他の場合はどうかと発展的に考えさせていく。授業で一人一人の考えが認められ、児童・生徒の学びが豊かになって、魅力ある授業につながっていく。

＜研究発表会の実施＞

2月7日(木) 日野市立日野第三小学校

研究授業	3年2組	「間の数に目をつけて」	授業者	夢が丘小学校	教諭
	5年1組	「きまりを見つけて」	授業者	日野第四小学校	教諭
	6年1組	「図形の角を調べよう」	授業者	日野第一中学校	教諭
研究発表	図書室				
	講演	常葉学園大学大学院 教授	黒澤 俊二	先生	

Ⅱ 研修部

教職員研修係

若手教員の育成に取り組む教育センターの活動

教育センターは、若手教員の育成に取り組んでいます。

今年度は、研修部専任 3 名と他の職務を兼任する所員 7 名の計 10 人で分担し、若手教員の授業観察及び指導を行いました。その様子の一部を紹介します。

研 修 名	対象人数	内 容
若手教員育成研修（1 年次）	5 1	年 3 回の授業観察及び指導の実施
若手教員育成研修（2 年次）	3 4	年 1 回の授業観察及び指導の実施
若手教員育成研修（3 年次）	2 6	年 1 回の授業観察及び指導の実施

（1 年次）5 年 算数科「分数をもっと知ろう」

単元名「分数をもっと知ろう。」の異分母同士の加減法を学ぶところでした。答えは約分すると大きさが分かりやすいことや、最小公倍数にすると計算しやすいことを理解させるのがねらいでした。



<指導>

異分母同士の加減法では、通分する際、最小公倍数を見つけて計算すると効率がよく出来るが、見つかりにくい場合は、分母同士をかけるなどに着目させ話し合いをさせるなどを指導しました。



（1 年次）5 年音楽科

「情景を想像しながら表現しよう」

歌詞の内容を理解し、曲想を感じ取って歌う合唱で二部合唱を主に指導する展開でした。「冬げしき」の情景を丁寧にイメージさせる指導は児童の学習意欲を喚起させていました。「夢の世界を」を二部合唱で事前に歌うなど子供たちは、授業のねらいを理解し授業に取り組んでいました。



<指導>

教師の立つ位置や目線、常に全体を意識しての指導が身についてきたことや教師の範唱・ピアノ伴奏が効果的であったことなどを評価しました。教師が音楽が好きでよく練習に取り組み指導計画もしっかりしていたことが子供の気持ちを汲み取り心に寄り添う指導になっていたと励ましました。



（2 年次）夏季半日研修会（グループ毎の授業研修）

夏季休業中の半日を使って 1 学期に行った授業の内容を 3・4 人のグループに分かれて一人ひとり発表した。その後、相互に意見交換し学びあい、授業実践について、センター所員より指導・助言を行いました。



（2 年次）夏季半日研修会（報告会）

その後、グループごとに話し合ったこと、授業実践で指導されたことを代表が報告しました。どの代表も 2 学期に向けての決意やこれまでにあった授業の反省に基づく改善への抱負、指導者への感謝の言葉に満ちていました。



（3 年次）夏季半日研修会

グループ毎の授業報告会後の全体報告会では、参加者から、研修部所員に指導されたこと、2 学期の授業改善や校務分掌上の決意を述べてもらいました。2 学期以降 1・2 年次とは違って校内での幅広い活躍が期待されました。



（3 年次）授業観察

1・2 学期を中心に、年 1 回の授業観察と指導を実施しました。3 年次の教員には授業でのねらいを達成し教科や学級の課題を解決する明確な方針をもって改善を図るよう指導しました。3 年次の多くの教員は校内研究の授業者として核となり活躍していました。



Ⅲ 相談部

1 一般教育相談

一般教育相談係

日野市教育相談室 ～確実な適応を目指して～

(1) 本年度の相談状況(4月～1月)

本年度、1月末までの相談回数は合計1,881回でした。このうち、来室相談が1,733回で、約92%を占めました。来室相談には前年度からの継続している

来室(継続)相談			電話相談		合 計
面接・親	面接・子	電話面接等	子どものこころの電話相談	一般教育相談	
635	354	744	17	131	1,881

52ケースと新規に受け付けた22ケースがあり、合計74ケースでした。そのうち20ケースについて、相談主訴の状況が解消または改善されたり、医療機関等の専門機関を紹介したことで相談を終結させることができました。

(2) 教育相談の流れ

教育相談は、はじめに電話で相談していただきます。そして、相談内容や緊急度、相談者の希望などによって、

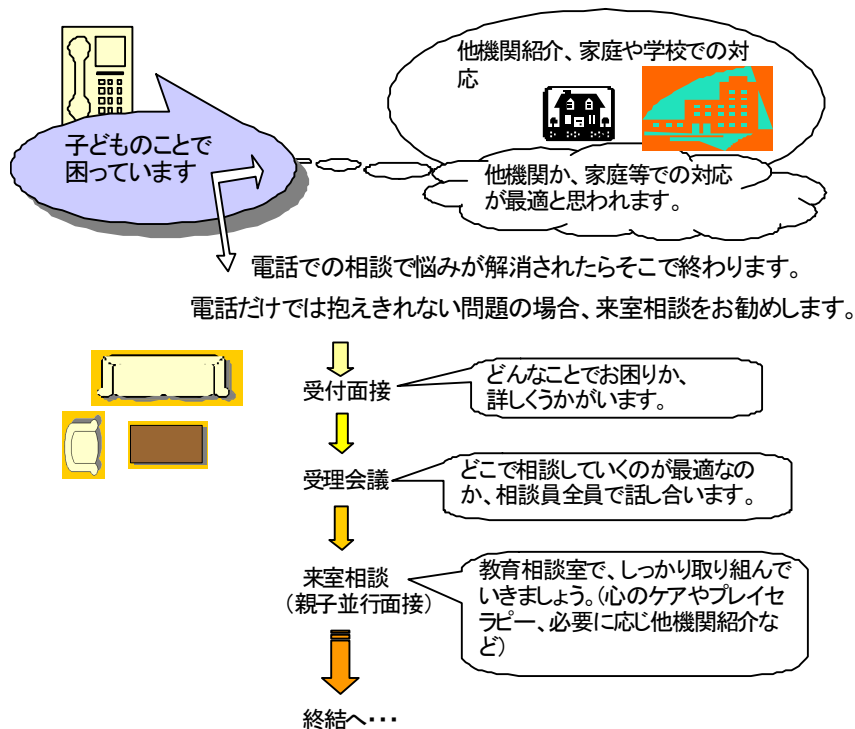
① 電話で助言する、他の専門機関を紹介する

② 継続して相談(来室相談)することになります。

本年度は、5名の相談員(臨床心理士)が各日平均3名体制で電話や面接を通じて解決に向けたお手伝いをさせていただきました。

(3) その他の活動

相談室では、電話相談・来室相談のほかに他機関との連携や研修活動も行っています。本年度は、学校の協力も得て初めて相談員による学校訪問(小学校10校、中学校3校)を行いました。また、教員対象の10年経験者研修や教育相談研修で、相談機関の紹介やロールプレイ等をとおして保護者や児童・生徒理解のノウハウを提供するなど、直接、先生方と情報や意見を交換することで連携を図りました。その他、都立小児総合医療センターを訪問し、紹介先としての情報収集などを行いました。



教育相談室 電話番号 042-592-1160
子どものこころの電話相談 042-592-2782
いずれも、平日の10～17時

2 学校生活相談

学校生活相談係・わかば教室

学校生活相談「わかば教室」の活動

学校生活相談係(わかば教室)は、学校生活における精神的な悩みや人間関係での不安、不登校・登校渋り等、児童・生徒の環境をめぐる問題や通室する児童・生徒に対しての相談・指導・援助、及び不登校問題に関する状況把握・情報提供や助言等を行ってきました。

(1) 教育相談活動

カウンセラーが、通室する個々の子供と定期的に継続して面接を行いました。また、随時保護者や在籍校とも相談してきました。継続したカウンセリングで多くの子供が精神的に安定し、目標を持った生活や高校受験に向けての努力をするようになり、その重要性がますます増えています。また、保護者との密な連絡・相談がよい結果を生んでいます。今後も工夫改善をしていきます。

(2) 教育活動

①楽しい体験活動(わかばタイム・行事)



社会科見学(読売新聞府中工場)



収穫祭・調理実習

「わかば教室」では、年間を通して幅広い体験活動を行なっています。

2学期は社会科見学や収穫祭等で楽しみました。体験活動には、いつも参加人数が多く、笑顔・活気、時には涙溢れる感動がありました。活動参加から学習参加へ、集団の輪の中へと適応の幅・質も高まっています。

②丁寧な生活指導

指導員は本教室の方針に沿って、いつも子供の状況を掴み、個々の理解のもとにより人間関係や健康な身体づくり、望ましい生活習慣の確立等を目指して丁寧に指導しました。安全指導を徹底し事故防止にも努めました。子供の多くは表情が明るくなり、挨拶や友達との会話も生まれ、友達と時程に沿って行動できるようになりました。毎日朝・昼休みは、皆でスポーツを楽しんでいます。



水墨画教室

③個に応じた学習指導(5教科を中心にした学習タイム)

学年や学習進度、子供の思い等を考慮して時間割を作成し、個別または小集団による基礎的な学習の指導・援助を行いました。また、自分のペースで学習ができるパソコンでのeラーニングを、楽しそうにかつ意欲的に学習する姿も見られました。

(3) 学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力

以上の活動は学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力に支えられています。在籍校との連絡を密にし、子供たちの通室の様子や出欠状況を把握したり、活動では地域の方やボランティアの学生等の協力があつたりして、効果をあげています。また、登校支援コーディネータ、一般教育相談とも日常的に連携し協力し合っています。

今年度は年度途中からの通室者が増え、3月現在46名が通室しています。また、5名が年度途中に学校へ復帰できました。さらに、部分登校者も増えています。しかしながら、通室生の多くは乗り越えなければならない課題を多く抱えております。今後も子供理解に努め、子供たちが目標を持って向上していけるよう援助するとともに、学校に戻る子供が一人でも多くなるように学校や家庭、関係機関との連携・協力を強めていきたいと思ひます。

「e-ラーニング」を活用した学習支援

登校支援員

小学校4年生、5年生、6年生の算数教材が更新され充実しました。

1 “わかば教室”の児童・生徒を対象としたe-ラーニング

わかば教室通室児童・生徒は、年間を通し週二日(固定学習日：月曜日・水曜日)e-ラーニングを活用した学習をしています。

わかば教室e-ラーニング学習時間では、e-ラーニング担当者が個別学習課題の取り組みへの支援をしています。つまずきのある学習やあまり学習してこなかった内容を基礎から学んだり、各学年の教科の内容も進度に応じて選んで学習できるので学力への不安が軽減されます。

☆わかば教室見学者は、固定学習日にe-ラーニング体験学習をすることが可能ですが、事前に曜日と時間の確認をしてください。

2 「在宅(家庭)」の児童・生徒を対象としたe-ラーニング

＜e-ラーニング利用期間と進級進学に伴うQ&A＞

Q1 利用できる期間は決まっていますか？

A：原則として、利用が許可された年度の3月31日までです。

Q2 進級または進学後も継続はできますか？

A：進級については、在籍校に、利用を継続することを申し出てください。小学校を卒業し、中学校に進学する場合は、小学校卒業時点で終了となります。中学校入学後は、在籍校となる中学校に利用を申請してください。

登校支援 学校訪問と各機関連携の取り組み

登校支援コーディネータ

各学校から、毎月不登校に関する調査書を提出してもらっています。この調査内容や、市教育委員会の指示に基づき、不登校児童・生徒の状況把握、改善の取り組みを行ってきました。

欠席人数の増加傾向にある学校、家庭状況等難しい問題からの不登校児童・生徒を抱える学校には、複数回訪問し解決の方策を話し合ってきました。養護教諭や先生方の生の声を聞き、改善の手立てを共に考えてきました。

その中から適応指導教室であるわかば教室に繋がった児童・生徒も出てきました。また、学校・教育相談室・わかば教室との連携を深める中で、学校に復帰したり、わかば教室に通室できるようになった子供もいます。長期不登校の子には、学校への登校はハードルが高い場合があります。引きこもりから脱する機会をつくるため、心休まり、成就感のある体験活動ができる居場所・せせらぎ農園との連携も進めてきました。

本年度は、サンライズプロジェクトの提言を受けた学校の取り組みもあり、途中段階ではありますが、昨年度より不登校の児童・生徒の減少が見られます。

不登校児童・生徒の問題は、将来の生き方に繋がる問題です。できるだけ早期に、人との関わりの場や共に学ぶ場に復帰させ、人間関係づくりや自己肯定感を培うことが大切です。今後も各機関との連携を深め、その子の状況にあった、手立てを探り、支援していきます。

教育資料・広報係より

教育センター・Web サイトの紹介

日野市研究奨励校の研究の成果や各校の研究概要を紹介

1 教育情報センターとしての機能の充実

本教育センターでは、学校や教員の児童・生徒の指導や学校運営に対して必要な情報を随時提供できる“教育情報センター”としての機能の充実を進めています。

教育センターWebサイトはそのうちの1つとして力を入れています。このサイトでは、主にセンターの日常的な活動の報告や教育相談、学校生活相談の活動の紹介を行っています。

2 日野市公立学校の研究成果の公開

本サイトの特色としては、日野市内の公立小・中学校が進める研修活動の成果を広く紹介していることがあげられます。「日野市公立学校の研究紀要・集録の紹介」という形で、研究の内容を概要で紹介しています。また、日野市教育委員会研究奨励校（本年度は6校）の発表会の日程や研究紀要の・集録の概要と共に、PDFファイルの形で、紀要・集録の冊子や当日の公開授業指導案をダウンロードできるようにしています。

3月5日現在、平成22・23・24年度公開の小・中学校研究紀要・集録の合計ダウンロード回数は3300回を超え、日野市内外からの教員、研究機関の教育の実践的な研究の資料として活用されていることが想像されます。

今後とも、本センターのWebサイトの充実をしていきたいと思っています。

研究紀要等各種資料のメニュー

- ・ひのつ子教育21開発委員会報告
- ・教育センターの活動報告
 - 教育センター紀要
 - 教育センター便り
- ・郷土教育指導資料
 - 第1集～6集
- ・日野市立小・中学校校内研究集録
- ・要覧

新しく購入した本の紹介(昨年11月購入)

- | | | |
|---------------------------------------|---------------|------------|
| ・改訂 校長・教頭の授業観察・面談ハンドブック | 工藤文三編集 | 教育開発研究所 |
| ・小学校 道徳授業の進め方基本型 | 永田孝哉著 | 明治図書 |
| ・中学校新学習指導要領の展開 道徳編 平成20年版 | 加倉井隆編著 | 明治図書 |
| ・教師コミュニケーション力一場面別・伝え合いの極意 | 森山卓郎 | 明治図書 |
| ・教科書を使いこなす総合の新しい授業アイデア50選小学校編 | 田村学著 | ぎょうせい |
| ・日本の地形 1 総説 米倉伸之編 | 貝塚爽平 編, 野上道男編 | 東京大学出版会 |
| ・人材紹介のプロがつくった発達障害の就活ノート | 石井京子 著 | 弘文堂 |
| ・発達障害は治りますか? | 神田橋 條治著 | 花風社 |
| ・たのしいたいいく 1・2, 3・4, 5・6年生 体育副読本教師用指導書 | | 文溪堂 |
| ・日野市旧桑田村の地名 | 今尾恵介 監修 | 日野の昭和史を綴る会 |

○本センター内教育図書資料室でご覧いただけます。また、市内教職員につきましては貸出いたします。